

1 研究の趣旨

ICT の発展はめざましく学校現場での活用が推進されつつあるものの、すべての学校で ICT 環境が整っているわけではない。そこで BYOD(Bring Your Own Device)を授業に導入し、スマートフォンやタブレット端末活用による主体的・対話的で深い学びにつながる英語教育における効果的活用の研究が必要であると考え、研究テーマとした。実践研究においては教師がチームとなり、効果的活用方法やデジタル教材作成のための技術共有を進めるとともにその指導実践を報告することにより文部科学省の推進する「教員の ICT 活用指導力向上」を図るものとした。

2 研究の概要

(1) ICT 機器活用に関する実態調査・英語学習に関する調査

今年度、入学した1年生(160名)を対象にICTを使った授業が中学校でどのように実施されていたかを調査した。また英語の言語活動に関する意識についても調査し、生徒の実態および課題の把握につとめ、課題解決の一助としてICTを活用し、授業改善につなげた。

(2) ICT 機器環境の整備・教員の ICT 活用指導力向上

教育現場でのICT機器活用の現状や問題点を把握するための話し合いや研修の場を設けた。ICTを活用し、生徒の学びの質を高めることをテーマとした授業を公開し、検証を行った。

(3) 英国での Teaching with technology 研修をいかした実践研究

英国での英語研修をいかし、英語学習アプリ等を自主学習に取り入れることを生徒へ勧め、生徒から使用後のヒアリングを行った。Kahoot!やQRコードなどのアプリを授業に取り入れ、主体的な学びを引き出す実践を行い、有効性について検証した。

(4) ICT 活用×学習アプリの活用事例

① 学習アプリを使った学習の可視化：学びを進める過程+学習の成果を可視化させた。

② 音声・スピーキング指導：個別最適化した学習スタイルを提供した。

③ ライティング指導：共有フォルダを介して提出や添削を行い、生徒全体へのフィードバック→リライトによるプロセスで指導を行った。

④ 英語プレゼンテーション：協働による主体的で深い学びを促し、英語の表現力を高めた。

⑤ 国際交流：SNSなどを活用した国際交流を通し、多様な価値観や考えに触れさせ、社会への一員としての自覚を促した。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

① 学習アプリを使うことで生徒の学習履歴の収集・可視化・分析が可能になり、生徒への適切な助言ができるようになった。教師が個々の生徒の成長に寄り添った対話や認める時間を持つことが日々、できることは「生徒が学びに向かう力」を育てる有効な手段の一つとなった。

② ライティング・スピーキング指導や英語プレゼンテーションは時間的な拘束が大きく、評価やその後の改善が手薄になってしまうという課題があったが、ICTを活用することで効率化と継続化ができ、生徒が英語を「書く・話す」機会が増え、アンケートや外部テストの結果から英語で表現することへのためらいがなくなってきたという意識の変容が実証され、今後も継続して実践研究していくに値するものとなった。

(2) 課題

① ICTを活用した3年間を見通した英語の発信力育成シラバスを詳細に作成し、継続的な実践につなげていく必要がある。

② ICT活用の学習効果をより明らかにし、「何を」「どのように学ぶか」をスクールビジョンのもと、教員全体で共有しながらチームで授業改善に取り組む必要がある。